

鷲津政彦 (わしづまさひこ)

死に体となった企業を買収し、業績を見込めるビジネスへと再生させる——。パルチャー（ハゲタカ）・ビジネスの最大手KKLの日本人、ホライズン・キャピタルの社長。のちサムライ・キャピタル設立。以前はジャズピアニストだったが、ニューヨークでビジネスの世界に身を投じることとなり、8年後、買収者として日本に帰ってきた。一見すると地味な外見だが、「10年で日本をパイアウトする」と豪語する大胆不敵な人物。



「ハゲタカ」「ハーディ」
人物ファイル

画・山田章博

芝野健夫 (しばのたけお)

大阪に本社を構える、三葉銀行行員。バブル崩壊後、増大した不良債権の処理にあたるが、理不尽な人事異動を機に三葉を辞職。友人・瀬戸山が経営するスーパーマーケット「えびす屋」の立て直しのためターンアラウンドマネージャーとして尽力する。そこでの活躍が認められ他の企業にも再生請負人として招かれるが、買収を狙う鷺津とたびたび対峙する。



賀一華 (ホーイーファ)

将陽明の孫で美麗の甥にあたる。上海が本社の**バイファグループ**という投資グループのCEO。香港映画に出てきそうな美形。将陽明から**しいた**げられており、陽明に一泡吹かせるため、美麗と共にリゾルテ・ドウ・ピーナスを買収しようと計画する。





松平貴子 (まつだいらたかこ)

日光のミカドホテルを経営する松平家の長女として生まれる。経営悪化したミカドホテルの再建を担うが、資金繰りが難航し、世界的リゾートグループ、リゾルテ・ドゥ・ビーナスに株を買収され、「雇われ支配人」となってしまう。「パン・パシフィック担当執行役員になり、三年で目標値を達成できたらホテルを返す」と約束され、気持ちを新たにミカドホテルの復活を目指していたが、熱海のお宿旅館「金色屋」の再建も命じられる。取り組み始めた矢先に会長のフィ

リップ・ビーナスが亡くなり、ビーナスグループの争いに巻き込まれる。役員の一人モニカ・バーンスタインをサポートしている。

ナオミ・トミナガ

日系三世のアメリカ人。世界的ファンドKKLの日本の子会社である
ホライズン・キャピタルの新社長として来日。リゾルテ・ドゥ・ビー
ナスの社長アンリ・ドヌーヴに日本のホテルの買収を持ちかけられ、
汐乃屋^{しおのや}に目をつける。さらにドヌーヴと共にリゾルテ・ドゥ・ビーナ
スの乗っ取りを謀るが、香港の大富豪 将陽明^{ジャンヤンミン}から手をひくよう求め
られ、撤退せざるをえなくなっていた。だが、ビーナスの死により計
画を変更する。勝ち気で野心家。貴子のことをよく思っていない。



美麗 (メイリ)

一年ほど前に記憶を失い六本木のクラブにさおりの名で勤めていたが、店で知り合った将陽明が自分の父親であること、父の下でスパイ活動をしていたことなどすべてを思い出す。本名は翁^{ウエンワンシヤン}藍香。かつての恋人が父の命令で殺されたことを知り、父への復讐の機会を窺っている。ピーナスの末亡人でピーナスグループの筆頭株主であるマリーヌに、息子のピアノ教師として近づき、信頼を得て秘書兼相談役となる。

